

Voice

ぼい

☆部門ファミリーデーで社員の子どもたちが職場訪問した 住友商事の資源・化学品事業部門

去る8月22日、住友商事の資源・化学品事業部門が東京本社において「部門ファミリーデー」を実施し、社員の子ども15名が9時半から15時まで各種イベントに参加した。

主なプログラムは、「トレード体感ゲーム」、「社長室訪問」、「コモディティビジネス部見学」などであった。このうち、トレード体感ゲームは、子どもたちが「一日社員」として「医薬品トレードで仮想通貨SCをゲットせよ!」というミッションを与えられ、「仕入先」「運送会社」「販売先」役の親と交渉し、稼いだ仮想通貨SCで報酬のお菓子を得るといった内容だ。子どもたちは親のデスクを訪れ、名刺交換や価格交渉を行い、交渉成立後に成約確認書に押印をもらった。

また、社長室訪問では、兵頭誠之社長との名刺交換、社長の椅子に座っての写真撮影、社長への質問、社長からのプレゼント（直筆サイン入りの手紙）などを行った。



▲社長室で記念撮影。

コモディティビジネス部見学では、原油の値動き予想ゲームや、先物取引の模擬体験を実施し、子どもたちは取引の金額規模に驚いた様子だった。

参加した子どもたちからは、「楽しそうなよい会社だね」などの感想が聞かれ、親の社員は「子どもが会社に興味を持ち、家族で話すきっかけとなった」と感慨深げに語っていた。

☆講師派遣や協定締結など、大学とのさらなる連携協力に取り組む ABIC

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター（以下 ABIC）は商社などのOB・OGが国内外で培った豊富なビジネス経験や人脈などの知的財産を活用し、国内外の様々な分野で社会貢献活動を行っている。

今回は大学との取り組みを紹介したい。

ABICでは17年度に約40校の大学で70～80講座を受け持ち、そのコマ数は1300以上を数えた。また、講師派遣者数は年間延べ300名になる。こうした実績を通じて大学との信頼関係が深まり、現在は関西学院大学、立命館アジア太平洋大学、桃山学院大学、東京外国語大学、東洋大学の5校と協定を締結し、連携・協力事業を推進している。

桃山学院大とは07年より連携を継続してきたが、今年7月に相互の発展ならびに地域経済の活性化への貢献を目的に「連携協力に関する協定」を締結、協力体制を強化した。

また、最近の取り組みでは、関学大との「高校生国際交流の集い2018」、東外大との夏のオープンアカデミー産学連携国際講座「世界の食文化から見る国際事情」などを開催した。

このうち前者の詳細に触れると、7月26～27日、関学大西宮上ヶ原キャンパスで開催され、14カ国の留学生35名と関西地域の高校（スーパーグローバルハイスクール指定校）10校から56名が参加した。同イベントは06年より始めて今年で12回目を数え、日本人高校生と海外からの留学生に交流を通じて国際間の違いを感じてもらうのが目的である。今回は「SDGs（持続可能な開発目標）」17項目の中から10のテーマについて、班ごとに2日間かけてグループディスカッションを進めてプレゼン発表にまとめ、その間にレクリエーションを行い、交流を深めた。「若者の純粋な感性に毎回驚かされる。このつぼみから大きな花を咲かせたい」とイベントを企画したABICの関係者は意気込みを語っていた。